

第五章

校友会活動

校友会活動

校友会機関誌『東京美術学校校友会月報』『校友会会報』『東京美術』『校友会誌』第十九号により、大正九年から昭和十六年までの主な活動事項を記す。各部の活動の詳細については紙面の関係で省略。

大正九年

月 日

一・二四 文学部主催講演会開催。菅原教造「裸体と衣服」。講演録は月報第十八巻第八、九号に掲載。

一・生徒部月報編集員を遠藤教三（日本画科四年）と岩田藤七（西洋画科二年）に依頼。

二・一四 文学部を文芸部と改称。文芸部に漢詩部、書道部、短歌部、創作部、講演部、書籍購読部、美術研究部を置き、田辺孝次と森田亀之助を監理役に任じ、遠藤教三、岩田西介、岩田藤七、和田茂生、森正、豊田勝秋、田中貞二、土井軍次、一井為次郎、小沢小一郎の十名を委員に任命。

三・豊田勝秋（铸造科卒業期）に生徒部月報編集員を依頼。

四・二七 白浜徹は剣術部部长となる。

五・一五 文芸部主催講演会開催。文学士田辺尚雄「音楽の話」

五・二九 文芸部主催レコードコンサート、同部第二回総会開催。同部に蓄音機部（レコード部）設置。部長森田亀之助。

一〇・二三 文芸部主催講演会開催。武田繁「イワン・メストロウィッチ」。講演録は月報第二十一巻第三号に掲載。

この年、本牧太一が屋代鉈三の後任として弓道部師範となる。

大正十年

五・二〇 『東京美術学校校友会月報』第二十巻第一号（二十巻記念号）発行。

・文芸部講演会開催。木下奎太郎「支那古美術聞見談」講演録は月報第二十巻第三号に掲載。

大正十一年

三・校友会より田辺孝次著『東京美術学校修学旅行 近畿古美術案内』発行。

三・この月発行の月報第二十巻第七号所載大村西崖「支那歴遊談」は文芸部講演会録と思われる。

四・運動部のなかに乗馬部を設置。部長津田信夫、副部長和田季雄。六月第一日曜より陸軍士官学校馬術教官部の指導のもとに同校馬場で練習を始める。

秋・謡曲部発足。石川正己の師、喜多流福岡周斎が相談にあずかる。

大正十二年

三・この月発行の月報第二十一巻第八号所載内藤湖南「支那画に於ける西洋画の影響」は文芸部講演会録か。

一一・校友会は関東大震災罹災会員への見舞金、見舞状贈呈を決議し、常務委員白浜徹、鈴川信一、足立芳五郎連名にて募金

に着手。

一二・二〇 本多利時が弓道部師範になる。

大正十三年

五・五 堆朱克彦の主唱により茶道部発足。この日、倶楽部で顧問正木直彦、主賓今泉雄作、部員三十名による発会式举行。

六・ 音楽部は初めてオーケストラコンサートを開く。

・ 明治神宮の競技大会に角力部、弓術部、水泳部、乗馬部等より参加。

大正十四年

一・ この月発行月報二十三巻第七号より編集兼発行人は田辺孝次から和田季雄にかわる。

二・一四 森田亀之助渡欧につき音楽部主催送別演奏会（講堂）、文芸部主催送別会（倶楽部）開催。

・ 従来の文芸部（詩部、短歌部、図書部、雑誌部、レコー部、弦楽部、声楽部）に演劇部を増設。

二・ 「東京美術学校校友会規則」改正。月報第二十四巻第一号に全文掲載。

五・四 水泳部杉田忠治は極東オリンピック出場と決まり、マニラへ出発。

五・一六 学生射撃連盟大会に校友会より十二名参加。

六・六 茶道部発足。宗偏流辻田道甫宗匠を師範として稽古を開始。

六・一二 演劇部主催第一回講演会開催。講堂で斎藤佳三と秋田雨雀が講演。

・ 運動部に山岳旅行部、スキー部増設。

一一・二一 文芸部主催講演会開催。小山内薫「表現派の戯曲に就て」。月報第二十四巻第六号に西田正秋がその概要を執筆。

大正十五年

二・一三 文芸部主催講演会開催。新井格は「文芸と社会」を、岡本一平は漫談形式の講演を行なった。ともに月報第二十四巻第八号に筆記掲載。

・ 十五年度常務委員に白浜徹、鈴川信一、足立芳五郎、立石商一、佐藤功、松山兼政、羽野禎三、黒田清純が選ばれる。

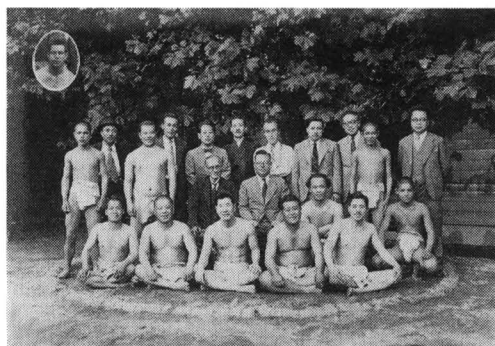
五・一二 野球部は大阪美術学校の斎藤与里に試合を申し込まれ、対戦して惨敗。

六・五 文芸部主催講演会開催。関野貞「法隆寺五重塔の新発見に就て」。

一〇・一七 謡曲部発足。部長久米桂一郎。

一一・五 午後、文部省指令「体育デー」により、第一回運動会開催。在校生、教職員、卒業生計八百人余り参加し、提灯競争、紅葉狩り、パン食い競争、二人三脚、抽籤競争、どじょう掴み、障害物競争、サックレース、マラソン、砲丸投げ、ジャンプ、盲啞競争、バスケットボール、縄引きをする。

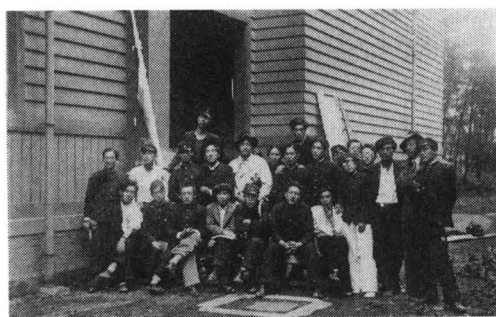
一二・二六 文芸部主催第二回映写会開催。斎藤佳三の尽力によりドイツ現代大家制作実況を映写。



角力部の先輩、後輩 昭和初期か（同右）



剣道部 大正末期（中野將氏提供）



演劇部員 昭和6年5月（小池タカ氏提供）



剣道部メダル 日名子実三作 昭和初期
（浦田正夫氏蔵）

昭和二年

六・一〇 楽焼部発足。

七月現在活動の各部

文芸部 図書部、雑誌部、音楽部、レコード部、短歌部、劇研

究部、茶道部、謡曲部、楽焼部、映画研究部

運動部 剣道部、柔道部、弓術部（以上体操副科）、角力部、

庭球部（軟球）、ピンポン部、野球部、水泳部、山岳

部、スキー部、蹴球部、籠球部、射撃部、陸上競技部

一〇・ 文芸部は部長森田亀之助帰国歓迎会および講演会開催。

講演筆記の一部は月報第二十六巻第四号に掲載。

一〇・一五 乗馬部、射撃部、水泳部、角力部、弓術部は明治神

宮競技会に参加。

一一・四 文部省指令「体育デー」により、第二回運動会を開

催。

一一・一九 文芸部主催演劇部・フィルム研究部講演会開催。牛

原虚彦がハリウッドやチャップリンの話をし、佐野碩が「日本

新興演劇に就いて」を講演。

一二・一〇 音楽部は部長森田亀之助帰国歓迎演奏会を、楽焼部

（部長和田季雄、顧問沼田一雅）は第二回作品陳列会開催。

昭和三年

四月現在活動の各部

文芸部 図書部、雑誌部、音楽部、レコード部、短歌部、演劇

部



俳句部納会 昭和9年
前列左より1人おいて水谷鉄也、星野麥人、
和田英作（同）



短歌部納会 昭和9年2月7日
後列左より2人おいて川路柳虹、広川松五郎
（小森五郎氏提供）

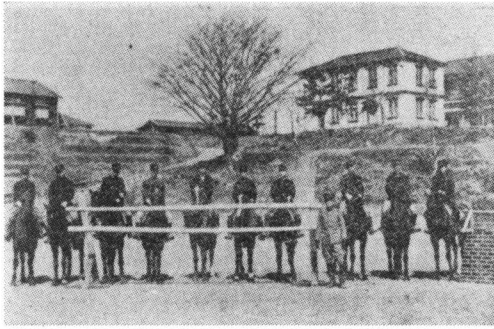


楽焼部 昭和3年

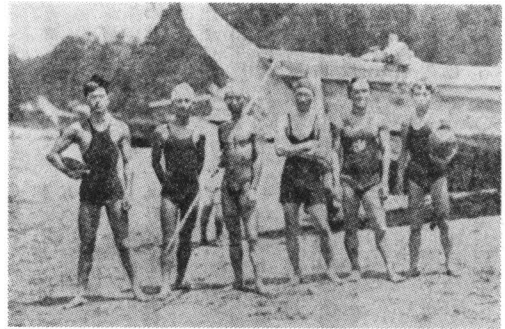


映画部ポスター・スチール展 昭和9年5月25日
（同）

- 同 臨時部 茶道部、謡曲部、楽焼部、映画部、近代芸術研究部、版画部
- 運動部 剣道部、柔道部、弓術部、相撲部、庭球部、ピンポン部、乗馬部
- 同 臨時部 水泳部、野球部、山岳部（スキー部）、射撃部、蹴球部、バスケットボール部、バレーボール部、陸上競技部
- 二・二五 演劇部主催講演会開催。小山内薫「戯曲演出の理論と実際」。概要は月報第二十七巻第三号に掲載。
- 五・一八 楽焼部は新入部員のために沼田一雅の講演および実地製作法教授を実施。
- 六・七 楽焼部は第四回作品陳列会開催。
- 六・一五〜一六 版画部は第三回椎の樹版画展を開催。
- 九・ 楽焼部は窯を新築。
- 一一・二 本校創立記念祝賀会後、御大典記念・校友会主催第三回陸上大運動会開催。
- 一一・一〇 音楽部主催御大典奉祝音楽会開催。
- 一一・一一 音楽部の声楽部は国民音楽協会合唱競技会に出場、十一団体中第二位となり、男声合唱団の一等となる。
- 一一・三〇 版画部は版画展開催。
- 一二・八 音楽部は演奏会開催。



乗馬部 昭和3年3月



水泳部 昭和2年



乗馬部送別会 昭和10年2月 (小池タカ氏提供)



短歌部 昭和3年

昭和四年

一二・一四 山岳部は和田季雄渡欧送別会開催。

一・一九 和田季雄(月報編集主任、文芸部副部長、同臨時部

総世話人、乗馬部長、卓球部長、運動部臨時各部部长) 渡欧

送別会を兼ねて倶楽部で校友会委員懇談会開催。八十余名出

席し、津田信夫(常務委員)の開会の辞、鈴川信一(同)の

挨拶、和田季雄の挨拶、各部委員の発言あり。

一・二六 倶楽部で校友会各部連合和田季雄送別会開催。

一・音楽部はピアノを購入。

二・一五〜一六 版画部は第六回椎の木版画展を開催。

二・図書部、演劇部、近代芸術研究部(のち映画部、エスぺ

ラント部も参加)は作家の見方に立った美術研究を目的とし

て『美術研究』を創刊。

三・この月発行の月報第二十七巻第八号より編集兼発行人は

和田季雄から田辺孝次にかわる。

六・七〜八 版画部は第八回椎の木版画展を開催。

六・文芸部にエスペラント研究会設置。この年度中に機関誌

NOVAJOを二回発行。

一〇・文芸部主催講演会開催。藤田嗣治「巴里に於ける画家

の生活」。講演筆記および生徒の感想等は月報第二十八巻第

五号に掲載。

一一・四 本校設置記念式挙行後、第四回運動会開催。

一一・二九〜三〇 版画部第六回版画展。



ドイツ語部 昭和6年



謡曲部 昭和4年



スキー部 昭和7年



弓道部 昭和6年

昭和五年

本年度中にエスベラント研究部は機関誌KRONIKOを五回発行。九月から日本古美術紹介絵はがきをG・T・SUNより発行。

四・村田良策を講師としてドイツ語部創設。

四・この頃角田耕が「現代巴里の工芸美術」を講演。筆記は月報第二十九巻第四号に掲載。

四・この月発行の月報第二十九巻第一号より編集兼発行人は田辺孝次から鎌倉芳太郎にかわる。

六・この頃エスベラント研究部はドイツ語部と合体して語学部となる。

六・この頃短歌部は『叉手集』を発刊。平田松堂(部長)、香取秀真、平福百穂、高村豊周、広川松五郎、藤沢古実その他卒業生と在校生の詠草三百六十余首を収録。

七・三 動物園との隣接地にテニスコート完成。正木直彦が始球式を行う。

七・二六 在巴里本校校友会開催。四十六名参加。概況は月報第二十九巻第四号の和田季雄書簡参照。

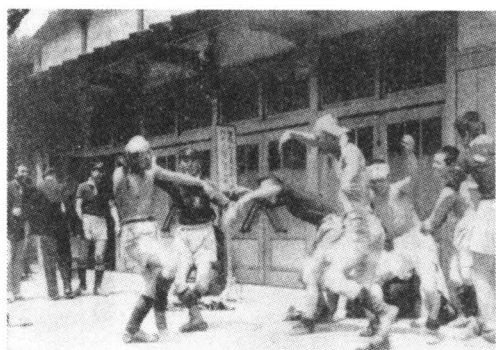
一一・四 第五回陸上大運動会開催。催しものは提灯競争、二人三脚、マラソン、徒歩三周、片脚一分間競争、パン喰競争、盲啞競争、対部リレー、抽籤競争、サックレース、リレー、障害物競争、スプーンレース、徒歩十周、フィールド競技、走巾跳、砲丸投、踊り、仮装行



茶 道 部 昭和11年



版 画 部 昭和7年



終戦後、大浦食堂前で踊るラグビー部員たち



日比谷公会堂における東京市主催第10回競演
合唱祭に出演した音楽部 昭和11年11月23日
(佐原雄次郎氏提供)

列、ラブパレード等。

一一・二三 音楽部は日比谷公会堂における国民音楽協会主催合唱祭で第五位を獲得。

一・二八、二九 版画部は版画展開催。

昭和六年

三・九 校友会は本校創立当時回顧座談会を開催。筆記は翌四月発行の月報第三十巻第一号(第三十巻記念号)に掲載。

四・二七 版画部は石井鶴三の版画に関する講演会を開催。筆記は月報第三十巻第五号に掲載。

六・ 楽焼部は展覧会開催。

七・ 短歌部末吉菊麿が「短歌部四十年史」を月報第三十巻第三号に寄稿。同部はこの年に機関誌『風』(謄写版三十頁余)を発行。

一〇・二四 映画部は第二回外国映画ポスター、スチール展を開催。

一一・四 校友会主催第六回陸上大運動会開催。種々の競技、仮装行列、踊りを行う。

一一・七 剣道部は第二十回剣道大会を開催。賞牌は日名子実三の作。

一一・二九 音楽部は日比谷公会堂の国民音楽協会主催合唱祭に参加。

昭和七年

一・三〇 エスペラント部は国際美術展を開催。

二・二九 建畠大夢その他の尽力により職員俳句会発足。

三・三一 校長・校友会長正木直彦退官。

五・二一 職員庭球部コート開き。

五・三〇 和田英作が校長・校友会長になる。

六・一一 エスペラント部は第二回国際複製美術展を開催。

六・二〇 音楽部は高木東六のピアノ独奏を聞く。

七・一六、一七 版画部は第十四回展覧会を開催。前川千帆、織

田一磨、石井鶴三の作および和田季雄所蔵欧州木版画の出品もあり、十八日には恩地孝四郎を招き、批評会を開く。

一〇・ 文芸部は校歌、学生歌およびそれらに対する希望を月報第三十一巻第四号にて募集。

一〇・一五 校歌募集に関連して音楽部は校歌、学生歌参考演奏会を開催。

一一・七 第七回陸上大運動会開催。種々の競技と踊り、寸劇を行う。

秋 演劇部は展覧会を開催。模型舞台装置、高村豊周所蔵歌舞伎役者写真、築地小劇場関係劇団の上演ポスター、スチールを展示。

この年、森田亀之助、森方太郎の尽力により写真部発足。二回展覧会を開く。

昭和八年

三・ 校友会規則改正（『校友会会報』第一号に全文掲載）。剣道

部、柔道部、弓道部、庭球部、陸上競技部、山岳水泳部、音楽部、映画写真部、茶道部、詩歌書道部、舞台芸術部の十一部を置くこととする。師範ないし指導者は左記のとおり。

剣道部 部長斎藤幸晴、師範橋本統陽

柔道部 部長丸山不忘、師範大江雄五

弓道部 師範本多、小山

庭球部 部長深瀬嘉臣

陸上競技部 部長和田季雄

山岳水泳部 部長正木篤三

射撃会 指導佐々木卓

乗馬会

音楽部 部長西田正秋

声楽部 指導鐔木欣作

レコード部 同

謡曲部 師範福岡周斎、上野八郎

映画写真部 部長高村豊周

茶道部 部長森田亀之助、師範堆朱克彦、佐々木

詩歌書道部 部長広川松五郎

短歌部 指導藤沢故実

俳句部 指導星野麥人（昭和十四年まで）

書道部 指導比田井天来

舞台芸術部 部長村田良策

六・一 校友会総務部内に人事部を設け、会員の人事相談事務

(生徒の内職幹旋等)を掌ることとする。

七・一 舞台芸術部は講堂前で舞台装置プラン展を開催。先輩伊藤薫朔の賛助出品あり、伊藤の講演会も開く。

秋 第八回運動会開催。

一二・五 短歌部は歌集『杜』を出版。

昭和九年

四・一一 茶道部は聖徳太子奉讃会における献茶儀式、茶の接待に活躍。

春 野球部発足。部長金沢庸治。

五・二五～二六 映画部は講堂北廊下にてポスター展を開催。

六・一六 舞台芸術部は講堂で発表会を開催。ヘルマン・カザック作「画家ゴッホ」、脚本朗読(モルナール作二つ)、里見淳作「たのむ」を上演。

七・七 校友会機関誌『校友会会報』第一号を発行。編集兼発行人香取秀真。

一〇・一一 短歌部および卒業生の一部が所属する花房会の第一回短歌会開催。

一一・二 第九回運動会開催。

昭和十年

・ 講演会開催。谷川徹三「美術と文学」。講演録は会報第十五号に掲載。

四・一 乗馬会は乗馬部として独立し、伊原宇三郎が部長とな

る。

春 山岳部(部長正木篤三)は青山新およびスキーのオーソリティー加藤顕清を顧問に推す。

春 舞台芸術部は第三回研究発表会開催。

六・六 声楽部はJ・O・A・Kの東京高等商船学校および本校の校歌、学生歌放送に出演。

一〇・五 講演部主催講演会開催。長谷川如是閑「文化と美術に就いて」。講演筆記は会報第六号に掲載。

一〇・二〇 声楽部は東西大学、高校、専門学校校歌、学生歌、寮歌の交歓放送に出演。

一一・七 講演部主催講演会開催。富本憲吉「陶器の変遷」。講演筆記は会報第七号に掲載。

一一・一五～一六 映画部はポスタースチール展を開催。

昭和十一年

二・八 講演部主催講演会開催。藤森成吉「渡辺崋山の人及び芸術」。講演筆記は会報第八号に掲載。

・ 舞台芸術部第四回研究発表会開催。「収獲」を上演。

五・二三 校友会生徒大会開催。引き続き佐藤春夫の講演あり。

六・二〇 講演部主催講演会開催。香取秀真「懸仏に就いて」。

★会報第八号所載昭和十一年度校友会役員名簿を見ると、会長は校長和田英作、委員は各科教員、事務員、生徒、各部部长計七十四名であったことが分かる。各部部长は次のとおり。

剣道部長 斎藤幸晴
柔道部長 丸山義男(不忘)

弓道部長 水谷武彦

庭球部長 深瀬嘉臣

陸上運動部長 金沢庸治

山岳水泳部長 正木篤三

音楽部長 西田正秋

映画写真部長 高村豊周

茶道部長 森田亀之助

詩歌書道部長 広川松五郎

舞台芸術部長 村田良策

乗馬部長 伊原宇三郎

六・二二 学校長兼校友会長和田英作辞職。

九・二 芝田徹心が校長兼校友会長となる。

一〇・四 第十一回運動会開催。

一〇・一〇 講演部主催講演会開催。蠟山政道「現代の政治に就いて」。

一一・二六〜二八 映画部は欧州名画ポスター、スチール展を開催。

一一・三〇 講演部主催講演会開催。河上徹太郎「現代日本の知性と伝統の問題」。講演筆記は会報第十号に掲載。

昭和十二年

一・三〇 山岳部、映画部は合同して講堂で映写会を開催。満鉄

社作「楽土満州」「北山廟山」「仙境閻山」「草原バルガ」塚本閣治作「野性動物の生態」「熊狩り」「妖精は踊る」を上映し、塚本の説明を聞く。

六・三〇 校友会機関誌『東京美術』第十一号(副題・東京美術学校校友会会報第十一号)創刊。編集兼発行人香取秀真。

七・ 映画部は『クランク』第一号を発行。

・ 文芸部主催講演会開催。本田顕彰「芸術と民衆」。筆記は『東京美術』第十二号に掲載。

・ 同上、児島喜久雄「制作と鑑賞」。

・ 同上、河合栄治郎「教養と生活」。

一一・二七 舞台芸術部は研究発表会開催、講堂でマルセル・パニョル作「ジャズ」を上演。

昭和十三年

二・ 映画部は『クランク』第二号を発行。

七・ 同上第三号発行。

一二・ 同上第四号発行。以下発行停止を命ぜられる。

・ 文芸部主催講演会開催。林謙「描写のメカニズム」。筆記は『東京美術』第十三号に掲載(あるいは十二年中の講演か)。なお、第十三号より高村豊周が『東京美術』の編集兼発行人となる。

・ 同上、柳亮「美術の発展に於けるメカニズム」。筆記は『東京美術』第十四号に掲載。

・ 短歌部は歌集『森』を出版。

昭和十四年

二・四 映画部第四回映写会。塚本閣治作「餓鬼岳」「大滝岳」「北鎌尾根」「スキーパラダイス」「鯨」を上映。

二・ この頃尺八部あり。同部ははじめ北山工山を師範とし、昭和十五年より都山流大師範片山雄山が代わる。

一〇・ 映画部は島木健作を囲む座談会開催。

一一・二五 舞台芸術部は講堂でチェホフ作「伯父ワニヤ」を上演。

昭和十五年

二・一八 『東京美術』は第十八号をもって廃刊となる。

五・二九 学校長兼校友会長は芝田徹心から澤田源一にかわる。

・ 茶道部は新訳『茶道便蒙抄』を出版。

一〇・二三 校友会機関誌『東京美術学校校友会誌』第十九号・皇紀二千六百年・創立五十周年記念号発行。編集兼発行人森田亀之助。

昭和十六年

二・二二 校友会解散。東京美術学校報国団結成。

（報国団の活動、終戦後昭和二十一年の校友会復活とその後の活動については83・102頁を参照されたい。）